

第 42 回学術講演会（ファジィフロント）のお知らせ

日本ファジィ学会関東支部では、下記のとおり、人間の感覚、知覚に関する学術講演会を開催いたします。高度情報化社会を迎え、コンピュータゲーム、ヴァーチャルリアリティなど、仮想現実、擬似体験が日常生活の中に入りこみつつある。このような生活の変革の中で、人間の感覚・知覚、知覚される心理的世界を再び問い直すとともに、最新のヴァーチャルリアリティ、ウェアラブルコンピューティングにおける応用技術としての感覚・知覚の扱われ方を探る。という企画です。この領域に関する研究に携わる研究者の方々にご講演をお願いしています。どなたでも自由に参加できますので、お誘い合わせの上、直接会場までお越し下さい。

テーマ：「情報化時代に人間の感覚、知覚を問い直す」

主催： 日本ファジィ学会関東支部

日時： 平成 14 年 6 月 22 日（土）14:00～17:00

場所： 早稲田大学文学部（戸山キャンパス）34 号館 2F 第三会議室

東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学マップ <http://www.waseda.ac.jp/koho/guide/univ18.html>

戸山キャンパス内 <http://www.waseda.ac.jp/koho/guide/toyama.html>

最寄駅は、東西線早稲田駅もしくは、高田馬場から早稲田大学正門行きバスに乗って、

馬場下町下車

参加費： 無料（資料代 500 円）

スケジュール：

14:00～15:15 心理学における知覚研究とその応用可能性について

市原 茂氏（東京都立大学 人文学部）

コンピュータ技術を利用して、仮想現実空間（VR）をつくり出そうという多くの試みがなされている。仮想現実空間は、アミューズメントとしても、また、応用的な側面からも、発展が期待される分野のひとつといえる。従来の VR は、ややもすると視覚の側面が重視されがちであった。今回は、人間の視覚の特性について概説することに加えて、聴覚などの他の感覚と視覚との相互作用の問題についても考察し、VR への応用可能性について論じる。

15:15～15:45 休憩

15:45～17:00 触覚の情報提示と新しい情報環境

池井 寧氏（東京都立科学技術大学 工学部）

計算機関連技術の進展に伴って、計算機で直接的に扱える情報の領域は広がりつつある。従来の視覚を中心とした情報インタフェースだけでなく、人間の身体に備わる五感に対する情報提示を目指したバーチャルリアリティの研究が進められている。触覚に対する情報提示は、十年程前から様々な手法の開発が行われているが、ここでは、皮膚感覚を生成するための触覚ディスプレイの構成法について紹介する。更に、実世界の対象に展開されつつある近年の情報提示技術について簡単に触れる。

講師紹介：

市原 茂氏（東京都立大学人文学部心理・教育学科 教授）

1949 年生まれ。東京都立大学人文科学研究科心理学専攻博士課程から、同大学助手、中京大学文学部心理学科を経て現在に至る。文学博士。専門は知覚心理学。日本基礎心理学会編集委員、照明学会英文誌編集幹事、日本官能評価学会編集副委員長。

池井 寧氏（東京都立科学技術大学・工学部生産情報システム工学科 助教授）

1988 年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。大阪大学工学部を経て、東京都立科学技術大学生産情報システム工学科助教授。分散型システム、バーチャルリアリティのための触覚ディスプレイ、ウェアラブル・携帯電話による情報環境に関する研究などに従事。

問合せ先

山下利之： 東京都立科学技術大学工学研究科 インテリジェントシステム専攻

E-mail: tyamash@cc.tmit.ac.jp Tel: 042-585-8616 Fax: 042-583-5119

大塚和彦： 筑波技術短期大学電子情報学科電子工学専攻

E-mail: tsuka@a.tsukuba-tech.ac.jp Tel: 0298-58-9389 Fax: 0298-58-9394